

思いや意図をもって表現する歌唱活動に関する一考察

——音楽科授業の実践と児童へのアンケート調査を通して——

奥山 晴菜*・長澤 希**

Research on Singing Activities that Express Thoughts and Intentions:
Through the Practice of Music Classes and Questionnaire Surveys of Children

Haruna OKUYAMA* and Nozomi NAGASAWA**

1. 研究の目的

本研究は、歌唱活動に関する児童へのアンケート調査および授業実践を通して、思いや意図をもって表現する歌唱活動についての示唆を得ることを目的とする。

令和5年2月～3月に広島県内の公立小学校（以下A小学校）の全校児童を対象に、歌唱に関する質問紙調査を実施した。その中で、音楽科の歌唱活動が好きではない児童が多く見受けられた。その理由として、「1人で歌われるから」「みんなの前で歌うことがあるから」等、技能面や技能の評価方法に関わる意見が散見された。この結果から、歌唱活動が目指す技能とは何なのかを見直し、技能の習得過程やその評価方法について、改めて考えていく必要があると考えた。

小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説音楽編によると、歌唱において育成をめざす技能は、「聴唱や視唱などの技能、自然で無理のない歌い方で歌う技能、声を合わせて歌う技能」とある。これらの技能は、思いや意図に合った表現をするために必要となるものとして位置付けられている。また、音楽科における技能は、「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせて習得できるようにすべき内容であることが次の通り明記されている。

音楽科における「技能」とは、歌を歌う技能、楽器を演奏する技能、音楽をつくる技能である。表現領域の歌唱、器楽、音楽づくりの活動においては、複数の技能を位置付けている。例えば、歌唱では、聴唱や視唱などの技能、自然で無理のない歌い方で歌う技能、声を合わせて歌う技能を示しているが、これらの技能は表したい音楽表現、すなわち思いや意図に合った表現などをするために必要となるものとして位置付けている。そのことによって、音楽科における技能は、「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせて、習得できるようにすべき内容であることを明確にしている。

（1. 教科の目標 pp. 12-13）

つまり、単なる「技能」ではなく、「思いや意図に合った表現をするために必要な技能」を児童が身に付けていくことが必要である。

「思いや意図」を扱った先行研究では、楽譜を手掛かりに音楽を形づくっている要素を感じ取り、表現の工夫に生かす活動を取り入れることが「思いや意図」をもって表現する力を高めることに有効であることが明らかになっている。（中村、2014）また、「思いや意図」が学習過程においてどのように変化していくかという「思いや意図」の質的な高まりを促すための指導法に着目した研究（梅館、2023）もある。「思いや意図」をもたせられたかどうかや、「思いや意図」を質的に高めるための学習指導の方法は明らかになっている一方で、「思いや意図」をもって表現する活動そのものに対する児童の意識や

* 広島県公立小学校教諭（教育学科2期生）

** 本学准教授

変容を探ったものは見当たらない。

そのため本研究では「思いや意図をもって表現する歌唱活動」を主軸とした授業実践を行い、児童の歌唱活動に対する関心や意識の実態と変容を探ることとした。

2. 児童への「歌唱」に関するプレアンケート

A小学校の全校児童第1学年～第6学年を対象に、歌唱活動に関するアンケート調査を質問紙法で実施した。その結果を分析することで、児童の歌唱活動に対する関心や意識についての実態を明らかにしていく。

(1) 調査の目的

児童の歌唱活動に対する関心や意識についての実態を明らかにすること。

(2) 調査の概要

〈調査対象〉

広島県内のA小学校の全校児童596名
(学年別内訳)

第1学年94名 第2学年95名
第3学年91名 第4学年94名
第5学年97名 第6学年125名

〈調査期間〉

令和5年2月27日～3月28日

〈調査方法〉

筆者らは令和5年2月27日にA小学校を訪問しアンケート調査の依頼をした。その後調査期間に、各担任に学級での回答時間を確保していただき担任の指示のもとで児童がアンケート調査に回答した。すべての学級の調査が終了した令和5年3月28日にA小学校を訪問し回答を回収した。

〈調査項目〉

普段の生活の中で歌を歌うことは好きか、音楽の授業で歌を歌うことは好きか、音楽の授業の歌を歌う活動でやってみたいこと等について全6問から構成した。

なお、倫理的配慮については、アンケート調査に「統計的に処理し回答者個人が特定されることはない」と明記した。また、アンケート調査実施の際に、その意図と目的をA小学校の管理職に説明し「アンケートの回答は任意であり、プライバシーの保護、匿名性の保証、研究目的

以外には使用しない」とアンケート内の文言および口頭で説明し承諾を得た。

(3) 調査結果

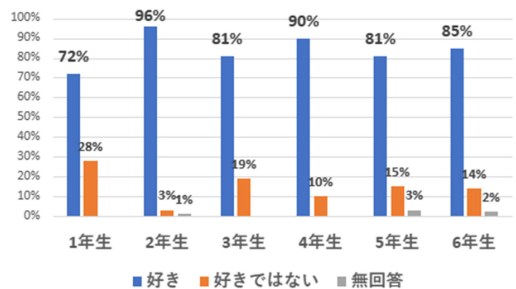


図1 普段の生活の中で歌を歌うことが好きか

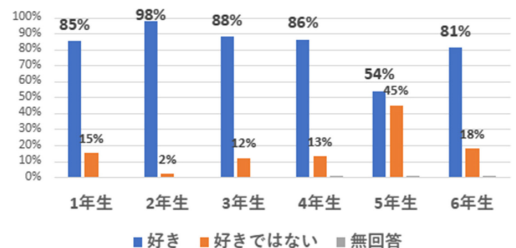


図2 音楽の授業で歌を歌う活動は好きか

表1 音楽の授業で歌を歌うときに「楽しい」と思うのはどんなときか (自由記述)

※2名以上の回答内容のみ記載

1年生	・みんなで一緒に歌うとき	37名
	・上手に歌えたとき	28名
	・曲がきれいなとき	4名
	・みんなの声がきれいなとき	2名
2年生	・みんなと歌うとき	60名
	・みんなの前で歌うとき	4名
	・1人で歌うとき	4名
	・たくさん歌うとき	4名
	・いろいろな歌を歌えたとき	2名
	・好きな歌を歌えたとき	2名
	・ビンゴの歌を歌うとき	2名
3年生	・みんなで一緒に歌うとき	53名
	・1人で歌うとき	11名
	・楽器を演奏しながら歌うとき	6名
	・音楽に合わせてリズムにのって歌うとき	6名
	・楽器の音に合わせて歌うとき	3名
	・きれいな声で歌えたとき	2名
	・好きな歌を歌うとき	2名
	・班で歌うとき	2名

4年生	・みんなで歌うとき	67名
	・踊りながら歌うとき	14名
	・リズムにのって歌うとき	5名
	・大きな声で歌うとき	5名
	・いろいろな歌を歌うとき	2名
	・上手に歌えたとき	2名
	・リズムをつくって歌うとき	2名
5年生	・みんなで一緒に歌うとき	48名
	・楽器を演奏しながら歌うとき	7名
	・1人で歌うとき	6名
	・歌が盛り上がるのとき	5名
	・知っている歌を歌うとき	5名
	・みんなの声と自分の声がそろうとき	4名
	・ハモリをするとき	3名
	・リズムにのっているとき	2名
	・うまく歌えたとき	2名
6年生	・みんなで歌うとき	69名
	・合唱しているとき	34名
	・うまくそろったとき	13名
	・知っている歌や好きな歌を歌うとき	7名
	・思いっきり歌えたとき	4名
	・リズムにのって歌えたとき	3名
	・思いを込めて歌えたとき	3名
	・歌の盛り上がるのとき	2名
	・男女で交互に分かれて歌うとき	3名
	・6年生全員で「旅立ちの日に」を歌うとき	2名

表1の記述内容から、音楽科の授業で歌を歌うときに「楽しい」と思うときは、「みんなで歌うとき」が1番多く挙げられた。今回アンケート調査の対象とした児童は、新型コロナウイルスの影響で、歌唱活動を十分に行えていない時期があった。大人数で歌うということを制限されていたため、「みんなで歌う」ということが嬉しく、楽しいと回答する児童が1番多いと考えた。また、「踊りながら歌う」・「楽器を演奏しながら歌う」といった回答も多く見られた。このことから、教師は、歌唱活動でただ歌を歌わせるのではなく、歌唱活動が好きではない児童も楽しむことができるように器楽や音楽づくり、鑑賞等の分野とも関わらせながら歌唱を行っていくことが大切であると考えた。

表2 音楽の授業で歌を歌う活動の際にやってみたいこと（自由記述）

※2名以上の回答内容のみ記載

1年生	・踊りながら歌う	38名
	・手をつないで歌う	10名
	・家族や幼稚園児の前で歌う	8名
	・全学年で歌う	8名
	・順番に歌う	5名
	・じゃんけんをしながら歌う	4名
	・家族や幼稚園児・地域のひとと歌う	3名
	・6年生と歌う	3名
2年生	・おいかけっこで歌う	2名
	・楽器を演奏しながら歌う	2名
	・みんなで歌う	30名
	・手をつないで歌う	21名
	・楽器を演奏しながら歌う	19名
	・マスクをとって歌う	15名
	・動きながら歌う	15名
	・好きな歌を歌う	6名
3年生	・輪になって歌う	4名
	・立って歌う	2名
	・手をたたきながら歌う	2名
	・踊りながら歌う	26名
	・楽器を演奏しながら歌う	22名
	・みんなで歌う	10名
	・好きな歌を歌う	8名
	・輪になって歌う	6名
4年生	・大きな声で思いっきり歌う	6名
	・マスクを外して歌う	5名
	・手をつないで歌う	3名
	・学校全体で歌う	2名
	・顔を見ながら歌う	2名
	・班やペアの人と歌う	2名
	・踊りながら歌う	32名
	・楽器を演奏しながら歌う	15名
5年生	・大きな声で元気よく歌う	10名
	・手をつないで歌う	9名
	・マスクを外して歌う	9名
	・みんなで歌う	6名
	・輪になって歌う	3名
	・班やペアの人と歌う	3名
	・肩を組んで歌う	2名
	・みんなで歌う	19名
6年生	・踊りながら歌う	16名
	・楽器を演奏しながら歌う	13名
	・ハモリながら歌う	7名
	・好きな歌を歌う	7名
	・班ごとに歌う	3名
	・歌唱対決をする	3名
	・手拍子をする	3名
	・大きな声で歌う	3名
7年生	・自分たちの歌をつくって歌う	3名

6年生	・楽器を演奏しながら歌う	28名
	・踊りながら歌う	19名
	・混声4部合唱をする	10名
	・好きな歌を歌う	9名
	・向かい合って歌う	5名
	・手話をしながら歌う	5名
	・手をつないで歌う	4名
	・校庭や屋上で歌う	4名
	・班やペア、男女で歌う	3名
	・マスクを外して歌う	3名
	・手拍子をしてながら歌う	3名
	・全学年で歌う	3名
	・大きな声で歌う	2名
	・指揮者をたてて歌う	2名
	・1人1人分担を決めてリレーする	2名

表2の記述内容から、授業で歌を歌う活動の際にやってみたいこととして、「みんなで歌う」・「楽器を演奏しながら歌う」・「踊りながら歌う」が多く挙げられた。これらの意見は設問「音楽の授業で歌を歌うときに楽しいなと思うときはどのようなときか」の回答と類似している。「楽しい」と感じることに「やってみたい活動」は共通していることが多いため、教師は児童の意見を上手く取り入れながら授業を展開していくことで、歌唱活動が苦手な児童も興味や関心をもって活動に参加できるのではないかと考えた。

3. 思いや意図をもって表現する歌唱活動の実践

ブレアンケート（図2）で「音楽科の授業で歌を歌う活動が好きではない」と回答した児童が最も多かった学年が第5学年であったことを踏まえ、アンケート調査時に第5学年だった学年（授業実践時は第6学年）を対象とした歌唱活動を実践した。

(1) 調査の目的

思いや意図をもって表現する音楽科授業の歌唱活動の実践を通して、思いや意図をもって表現することにおける児童の実態を把握するとともに、音楽科授業の歌唱活動に対する意識の変容を知ることである。

(2) 調査の概要

〈調査対象〉

広島県内のA小学校6年生3学級 計109名（有効数）

〈調査日〉

令和5年9月11日 2、4、5校時

令和5年9月15日 2、4、5校時

(3) 音楽科授業の歌唱活動の概要

〈題材名〉「いろいろな和音のひびきを感じ取ろう」

〈教材名〉『星の世界』（教育芸術社）

〈題材計画〉全8時間

第1次（3時間）

『星の世界』の旋律の特徴を生かして歌う

第2次（3時間）

『雨のうた』の短調の響きを感じ取って演奏する

第3次（2時間）

和音の音で旋律づくりをする

全8時間の題材のうち、1・2時間目にあたる2時間分を3学級すべてで実施した。

(4) 思いや意図をもって表現するために教師が行った手立てや工夫

〈1時間目〉

・“どのように表現したいか”という思いや意図を考える時間を設けて全体で共有する。

→“なぜそう考えたか”というところを丁寧に拾い上げることで児童1人ひとりの思いや意図を深めることができるようにする。また、思いや意図を全体で共有することで、みんなで1つの合唱を作り上げていく中で、どのような工夫が適切か考えられるようにする。

・思いや意図を踏まえて“どのような工夫ができるか”を考え全体で試す。

→様々な歌い方を試すことで、自分たちの理想とする合唱に近づくためにはどうしたらよいか考えられるようにする。

・児童の演奏を録音して聴かせる。

→自分たちの演奏を客観的に聴かせることで、演奏の良い点や改善点を見つけ、自分たちの理想とする合唱に近づくためにはどうしたらよいか考えられるようにする。

・『星の世界』を聴いて感じたことと歌詞とを関連付ける。

→歌詞にも着目させることで、歌詞の意味について考え、それらを踏まえてどのように歌うか思いや意図をもつことができるようにする。

〈2時間目〉

・前時で考えた“どのように歌うか”について適宜確認しながら活動を進める。

→授業の最後まで思いや意図をもち続けられるようにする。また、歌い方で迷いが生じたときにすぐに自分たちの思いや意図を確認できるようにしておくことで、自分たちの理想の合唱を創っていくことができるようにする。

・“どのように表現したいか”という思いや意図を考える時間を設けて全体で共有する。

→“なぜそう考えたか”というところまで問いかけることで、児童1人ひとりの思いや意図を深めることができるようにする。また、思いや意図を全体で共有することで、みんなで1つの合唱を作り上げていく中で、どのような工夫が適切か考えられるようにする。

・思いや意図を踏まえて“どのような工夫ができるか”を考え全体で試す。

→様々な歌い方を試すことで、自分たちの理想とする合唱に近づくためにはどうしたらよいか考えられるようにする。

・児童の演奏を録音して聴かせる。

→自分たちの演奏を客観的に聴かせることで、演奏の良い点や改善点を見つけ、自分たちの理想とする合唱に近づくためにはどうしたらよいか考えられるようにする。

・3つの和音だけで曲が成り立つことを紹介する。

→和音に興味や関心を持たせ、和音の流れを意識しながら思いや意図をもつことができるようにする。

(5) 児童のワークシートの記述内容（抜粋）

◎『星の世界』を聴いて感じたこと

- ・ゆったりしている。
- ・山場が分かりやすい。
- ・森の奥で1人で星を見ている。
- ・落ち着いた静かな感じ。
- ・夜空にたくさん星があって、それぞれの星がかがやいているように感じた。
- ・子守歌みたい。
- ・歌の中に星にまつわる言葉が入っていた。

→星座、宇宙、かがやく

・声が重なって響いている。→幻想的

◎『星の世界』を歌うときの工夫

- ・星のことを想像しながら歌う。
- ・ゆったりのんびり歌う。→星は夜空でのんびり

りしている感じだから。

・歌うところによって場面を想像する。

・和音のひびきの移り変わりを感じ取りながら歌う。

・互いの旋律を大切にしながら、互いの声をきき合って歌う。

・強弱記号に気を付けながら歌う。

・歌詞を意識して歌う。

・優しくひびく声で歌うために気持ちをリラックスさせてゆっくりなめらかに歌う。

・ブレス記号のところで息をたくさん吸う。

・体を動かしながら歌う。

【ワークシートの記述内容（抜粋）】

◎『星の世界』を歌うときの工夫

(和音の響きを感じながら)

・自分のパートに集中する。同じパートを歌う人に音色を合わせて歌う。

・自分の音を保てるようにする。→自分のパートの音を覚える。

・おなかから声を出して声をひびかせる。

・強弱を意識して歌う。

・リラックスしながらなめらかに、つなげて歌う。

・周りの音を聴く。

・どちらかのパートが目立つのではなく、それぞれのパートが同じくらいの声の大きさで歌う。

・声を合わせてまとまりがあるように歌う。

・その場面を感じながら歌う。

・星に合った声や優しい声で歌う。

4. 児童への「歌唱」に関するポストアンケート

前述した歌唱活動の実践において対象とした第6学年の児童に、ポストアンケートを実施した。その概要と結果について述べる。

(1) 調査の目的

思いや意図をもって表現する音楽科授業の歌唱活動の実践を通して、思いや意図をもって表現することにおける児童の実態を把握するとともに、音楽科授業の歌唱活動に対する意識の変容を知ることである。

(2) 調査の概要

〈調査対象〉

広島県内のA小学校第6学年3学級 計103名（有効数）

〈調査日〉

令和5年9月15日

〈調査方法〉

歌唱活動の実践後に3学級それぞれにおいて担任の指示のもと、アンケート調査を実施した。

(3) 調査結果

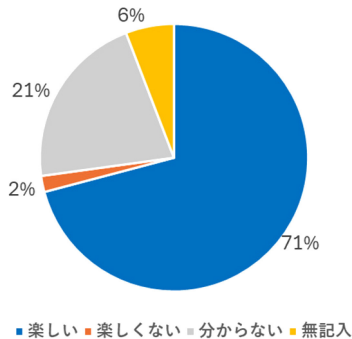


図3 自分が「こんなふうに歌いたい」という思いや意図をもって歌うことは楽しいか

図3では、思いや意図をもって表現する歌唱活動の実践を通して、思いや意図をもつことが楽しかったかについて尋ねた。思いや意図をもって歌うことが「楽しい」と回答した児童は71%、「楽しくない」と回答した児童は2%、「わからない」と回答した児童は21%であった。

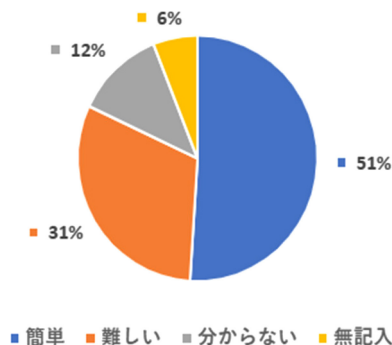


図4 自分が「こんなふうに歌いたい」という思いや意図をもつことは簡単か

図4では、思いや意図をもって表現する歌唱活動の実践を通して、思いや意図をもつことの難しさについて尋ねた。思いや意図をもつことが「簡単」と回答した児童は51%、「難しい」と回答した児童は31%、「わからない」と回答した児童は12%であった。

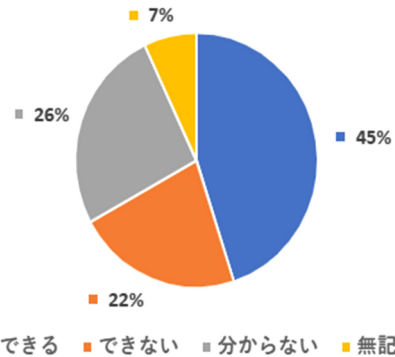


図5 自分が「こんなふうに歌いたい」と思った通りに歌うことができるか

図5では、思いや意図をもって表現する歌唱活動の実践を通して、思いや意図を表現することができたかについて尋ねた。「こんなふうに歌いたい」と思った通りに歌うことが「できる」と回答した児童は45%、「できない」と回答した児童は22%、「わからない」と回答した児童は26%であった。

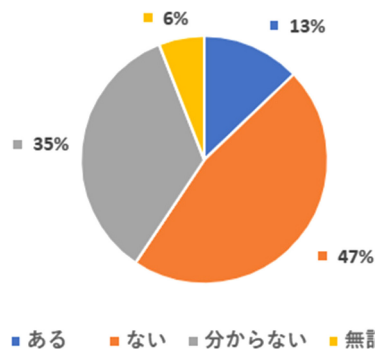


図6 自分が「こんなふうに歌いたい」と思って歌うときと先生に「こんなふうに歌いなさい」と言われて歌うときでは歌っているときの気持ちに違いはあるか

図6では、思いや意図をもって表現する歌唱活動の実践を通して、自分で思いや意図をもって歌うときと、先生に指示された通りに歌うときとは歌っているときの気持ちに違いはあるかを尋ねた。歌っているときの気持ちに違いが「ある」と回答した児童は13%、「ない」と回答した児童は47%、「わからない」と回答した児童は35%であった。「ある」と回答した人は、どのような違いがあるかを自由記述で尋ねた。「ある」と回答した児童の意見は以下の通りである。

- ・自由に歌えて楽しいけど、こう歌えと言われるとあまり楽しくなくなる。
- ・自由に工夫ができるところ。
- ・自分が思っていたのとちがったらちょっとむっとする。
- ・自分の思っているのとちがったらあまり楽しめない。
- ・きもちよく歌えます。
- ・自分はこう歌いたいのに先生に言われて歌って何かモヤモヤする。
- ・音の強弱や歌い方です。のびし方、音の高さなどです。
- ・やっぱり、人と自分が思っていることはちがうので、そうして歌っていると、ちがっているなと思います。
- ・歌うときの自由がちがう。
- ・自分が思ったように歌えなくて不満な気持ち。
- ・自分の思っているように歌う方が楽しい。
- ・自分から歌おうとした時はやる気があって歌うから、上手に歌えるけど歌いなさいと言われてやるのではやる気がちがうからです。

- ・自分の気持ちが伝わりやすいからです。
- ・いろいろな表現ができるから。
- ・自分の目標みたいなものを持っていると、やる気が出て楽しいからです。
- ・完成した姿や声を思うことで、どう工夫するか考えやすくなるから。

＜「わからない」と回答した児童の意見＞

- ・こう歌いたいと思ってもよいし、それがなくても別に悪いわけじゃないから。
- ・自分が思っていることがまちがえていたら、みんなが歌うときに自分が困ってしまうけど、それがあっていたら、もっと楽しく歌えるから。

なお、ポストアンケートでは、「思いや意図をもって歌うことは楽しいですか」という問いでは、73%の児童が「楽しい」と回答していた。また、「思いや意図をもって歌うことはよいことですか」という問いでは、82%の児童が「はい」と回答していた。さらに、プレアンケートとポストアンケートの同じ設問の回答が肯定的回答に変化した児童が17名いた（有効数86名中）。思いや意図をもって歌うことはよいことであると回答した児童の意見としては、「自分の個性ができるから」・「目標があると、歌うときが楽しくて、がんばろうと思うから」・「自分の気持ちが伝わりやすいから」等思いや意図をもって表現することのよさを実感していると感じられる記述が多く見られた。一方で、思いや意図をもって歌うことがよいことか分からないと回答した児童の意見として、「こう歌いたいと思ってもよいし、それがなくても別に悪いわけじゃないから」・「自分が思っていることがまちがえていたらみんなと歌うときに自分が困ってしまうけど、それがあっていたらもっと楽しく歌えるから」等が挙げられた。

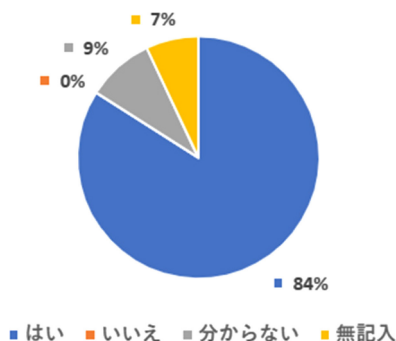


図7 自分が「こんなふうに歌いたい」という思いや意図をもって歌うことはよいことですか

図7では、思いや意図をもって表現する歌唱活動の実践を通して、思いや意図をもって歌うことの良さを実感することができたかについて尋ねた。思いや意図をもって歌うことはよいことですかという問いに対して「はい」と回答した児童は84%、「いいえ」と回答した児童は0%、「わからない」と回答した児童は9%であった。

＜「はい」と回答した児童の意見＞

- ・意図をもって歌って、できたら楽しいから。
- ・自分の個性が出るから。

4. 研究の結果と今後の課題

本研究の目的は、歌唱活動に関する児童へのアンケート調査および歌唱活動に関わる授業実践を通して、思いや意図をもって表現する歌唱活動についての示唆を得ることであった。研究の結果、思いや意図をもって表現することの良さを実感している児童の割合は高いことがわかったが、一方で思いや意図をもって表現するための過程における多様な課題があることもわかった。

た。この多様な課題が、思いや意図をもって表現する歌唱活動への示唆であると捉えている。多様な課題として主に次の3つを挙げる。①一人ひとりの思いや意図の実現、②思いや意図をもつための十分な時間の確保、③評価の在り方である。

①一人ひとりの思いや意図の実現については、授業実践の中で、『思いや意図をもって表現する楽しさやよさについて児童自身が実感するためにはどうしたらいいのか』、『児童1人ひとりの思いや意図を深めていくためにはどうしたらいいのか』について悩み、課題に感じた。学級全体と個人の思いや意図をどのように歌唱活動に反映させていくのかについて検討していきたい。

②思いや意図をもつための十分な時間の確保については、思いや意図を踏まえて歌い方の工夫を考える活動において「なぜこの工夫をしたのか」という“意図”を答えることができない児童が多かった。それは、児童自身が自分の思いをきちんともつことができていなかったことが原因であると考え。教師が、その教材の良さを児童と一緒に見つけていくことが、「こんなふうに歌いたい」という思いをもつこと、そして、「なぜこの工夫をしたのか」という意図をもつことに繋がると考える。また、思いや意図をもつことが難しい児童には、「この曲を聴いてどのように感じたか」・「どのような場面で流れていそうか」等まずはその曲に対して興味や関心をもたせたり、イメージを膨らませたりすることが、「こんなふうに歌いたい」という思いをもたせることに繋がるのではないかと考えた。そして、思いや意図をもって表現する歌唱活動に対して、児童が主体的に参加することができるようにするには、“教師は児童の意見を共感的に受け入れること”・“教師が率先して自己表現していくこと”が大切であるとわかった。授業実践の後に行ったポストアンケートでは、「思いや意図をもつことが難しい」と回答した人が31%、「思った通りに歌うことができない」と回答した人は22%であった。今回は実践授業数2時間という限られた時間であったことも、思いや意図をもって表現することの楽しさや良さを実感することができなかったと考えられる。そのため、児童らが思いや意図をもつことができる時間数

の確保が必要である。

③評価の在り方については、教師は単なる「技能」を評価するのではなく、「思いや意図に合った表現」ということを評価していくことの必要性は先述の通りである。そのためには従来の「技能」そのものを重視するような評価方法から逸脱し、「思いや意図に合った表現をしているかどうか」について見取ることのできる評価方法について検討していく必要があるだろう。現に児童の回答には、1人で歌わされることや人前で歌うことに抵抗感を示す者もいた。児童が思いや意図をもって表現する過程のなかで適切な評価方法を見直していく必要がある。

参考文献

- 伊藤久恵 (2017)
「子どものモチベーションを高める音楽科指導法—小学校・授業リポートから探る—」、『東京未来大学研究紀要 Vol. 10』、pp. 1-10
- 緒方 満 (2017)
「音楽科教育法における歌唱指導方法の扱い」、『比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究第3巻』、pp. 53-60
- 田端浩多 (2016)
「思いや意図をもたせる歌唱活動についての研究—小学校1年生を事例として—」、『奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」』第8号、pp. 105-110
- 津田正之 (2022)
「I 小学校音楽科の意義」有本真紀・阪井恵・津田正之編著『教員養成課程小学校音楽科教育法』教育芸術社、pp. 6-9
- 文部科学省 (2016)
「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説音楽科編」、東洋館出版社
- 中村亜沙子 (2014)
「思いや意図をもって表現する力を高める小学校音楽科指導の工夫—楽譜を手掛かりに音楽を形づくっている要素を感じ取り、表現の工夫に生かす活動を通して—」、『平成26年度教員長期研修（前期各研究内容）』、pp. 1-8
- 梅館美和 (2023)
「児童の「思いや意図」の質的な高まりを促す指導法の研究—小学校第3学年の歌唱活動を対象として—」、『令和5年度課題研究報告書』<https://www.saitama-u.ac.jp/edu/grad/master/report/pdf/r-05-junior/010.pdf>、(最終閲覧日2025_1_31)